峨瀧の滝は、12メートルの高さから鮮緑色の滝壺に流れ込み、峨瀧峡の入り口にあるその滝壺は、青々と茂った森林に囲まれている。県道 317 号線からわずか数十メートルのところにあるが、この地域で最も美しい滝の 1 つである。

峨瀧の滝を囲む森には、カエデ、スギ、トチノキが咲き乱れ、藤の蔓がいくつかの木に絡み合っている。滝の下にある透明な滝壺の深さは 3～4 メートルで、夏になると人々が峨瀧の滝に涼みにやって来る。栗、カエデ、そして数種類あるイチヨウは、秋になると鮮やかな黄色とオレンジ色に変わり、それらの葉が水辺に沿って歩道を覆う。冬になると、滝が凍って雪柱や氷柱ができ、夜にはそれらがライトアップされる。

何世紀もの間、人々は滝を眺めにこの場所にやって来た。名古屋地方の旅行家で博物学者である菅江真澄（1754～1829）は、何十年にもわたって秋田を旅し、自分が見たものを記録した。1802 年に彼は峨瀧の滝についての詩を詠んだが、その詩が近くの石に刻まれている。

ふる雪か	降っている雪か
花かあらぬか	はたまた淡い花か否か
山風に	山風に
さそわれてちる	引き寄せられて、運ばれて、散らばる
滝のしら泡	滝の白い泡

滝の脇には滝ノ沢神社がある。この神社は 1780 年に建てられ、不動明王が祀られている。不動明王は仏教における 5 人の明王の 1 人で、炎に包まれた恐ろしい形相の仏である。古来より山伏たちは不動明王像に祈りを捧げてきたので、不動明王は一般的に修行が行われていた滝の近くに祀られている。

峨瀧の滝の駐車場は藤里町から車で約 10 分のところにある。そこから直接、滝および滝ノ沢神社まで歩いたり、高山（388m）へと続く林道を通して峨瀧峡に行くことができる。この景勝なルートは、峨瀧の滝に流れ込む溪流に沿って峡谷を通る。駐車場から徒歩約 30 分で、白糸二段の滝を通過する。

白糸二段の滝を過ぎると、高山登山道はさらに峡谷の奥へ 1km ほど進み、別の小さな駐車場に到着する。ここが、高山の山頂への登山口で、所要時間は約 1 時間。山頂からは登山道を進み、白神山地世界遺産センター付近に出る。

この峨瀧の滝の駐車場から世界遺産センターまでのアクセスの良いルートは、藤里の自然の美しさを半日ほどで満喫できる素晴らしい方法である。高山登山口まで車で行く場合は、道路が未舗装で、岩が多い場所があることに注意する必要がある。